めざすは「世界一周ダンス」

いま 子どもたちは No.1703

二つ目の外国語 3

「世界の言語」の授業で1年生が五つの外国語を学ぶ奈良県立国際高校（奈良市）。この春開校した同校では、同じ校地にある登美ケ丘高校（2022年3月に閉校）と合同の部活動が多い。一方、新たにできた部の一つが「世界のダンス部」だ。

9月上旬、放課後の空き教室から軽快な音楽が聞こえてきた。基本のステップを確認しながら、同部の女子生徒5人がサルサを踊っていた。活動は週2回、2時間ほど。現在は世界の様々なダンスに詳しい人から学び、レパートリーを増やしているところだ。

部長の中山愛理さん(16)は小中学校の5年間、ヒップホップダンスに打ち込んでいた。「これまでやっていたダンスとは違う難しさもあるけど、新しい発見があって楽しい。体幹を鍛えた方がいい点は同じ」と語る。新しい部の活動をどうするか話し合い、国際高校らしいものにしようと現在の形になった。顧問の田中晋作教諭(40)は「生徒たちの好きなものを通じて、世界の多様性に触れてほしい。授業のなかで得た外国の言語や文化の知識が直接的、間接的にダンスと関連していることも多いようだ」。

五カ国語を学ぶ取り組み以外にも、奈良県立高校で初めて全校生徒が1人1台のタブレット端末を持って日々の学習に活用するなど、国際高校では積極的に新しいものを採り入れている。持続可能な社会を考える授業「グローバル探究」では、東南アジア・ボルネオ島の生物多様性の保全について学び、ボルネオ島と北海道の旭山動物園をウェブ会議システムでつないで意見交換した。1期生は校歌づくりにも加わる。「新しいこと好き」を自任する中山さんは、そんな環境が気に入っている。部の活動では「これからもいろんなダンスを身につけて、来年の文化祭では『世界一周ダンス』を披露できたら面白そう」と考えている。

国際高校は将来的に、海外大学の入学資格が得られる教育プログラム「国際バカロレア」の認定校を目指している。23年には、同じ敷地に県立中学校も併設される。

（佐藤剛志）

奈良県立国際高校にできた「世界のダンス部」のメンバー＝奈良市

令和２年９月２９日　朝日新聞（全国版）